

第317回

日文研フォーラム

講師◎金容儀

全南大学校(韓国)日本文化研究センター所長／日文研外国人研究員

観音さまを抱きしめる——西国三十三所巡礼の旅

コメンテーター◎荒木浩 日文研教授

司会◎佐野真由子 日文研准教授

2018年1月9日(火) 十四時～十六時(開場十三時四十分頃)

ハートピア京都3階大会議室

入場無料・先着二八〇名まで

申込不要(十三時十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies

The 317th Nichibunken Forum

主催:大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



日文研30周年
NICHIBUNKEN 30th ANNIVERSARY

日文研フォーラム

観音さまを抱きしめる

— 西国三十三所巡礼の旅

Hugging Kannon:

Visiting the 33 sites of Saigoku Pilgrimage

現代人は孤独である。それゆえに、たまには誰かとハグでもしたくなる。死に別れた父母、夫や妻、子ども、友人、知人などとは、なおさらである。そのために、人は西国三十三所巡礼の旅に出かけるのである。巡礼の旅では、念願の「観音さま」に出会う。ここで言う「観音さま」とは、恋しき人々の化身である。つまり観音像には、死に別れた恋しき人々の面影が託されているのである。――

本講演では、西国三十三所巡礼の旅に出る人々がそこに何を求めているのか、民俗学の立場から続けてきたフィールドワークに基づいて考察します。そして、自身の巡礼の体験を、皆様と分かち合いたいと思っています。

講師 金 容儀

全南大学校(韓国) 日本文化研究センター 所長／日文研 外国人研究員



1988年2月全南大学校日語日文学科卒業。1998年3月大阪大学にて博士号(文学博士)取得。現在、全南大学校日語日文学科教授及び沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員。2017年4月より国際日本文化研究センター 外国人研究員を併任。専門分野は、民俗学、日本文学、韓日比較文化。主な著書に『日本の相撲一儀礼なのかスポーツなのか』(民族苑、2014、韓国語)、『日本説話の民俗世界』(全南大学校出版部、2013、韓国語)、『瘤取爺と内鮮一体』(全南大学校出版部、2011、韓国語)などがある。

コメンテーター 荒木 浩 日文研 教授



1986年京都大学大学院博士後期課程中退。博士(文学、京都大学)。大阪大学大学院教授を経て、2010年4月より現職。総合研究大学院大学教授を兼任。国文学研究資料館併任助教授、コロンビア大学客員研究員、ネルー大学、チューリヒ大学、ベトナム国家大学、チュラーロンコーン大学、ソフィア大学で客員教授を歴任。専門分野は日本文学。主要著作に『徒然草への途』(勉誠出版、2016)、『かくして「源氏物語」が誕生する』(笠間書院、2014)、『説話集の構想と意匠』(勉誠出版、2012)、編著に『夢と表象』(勉誠出版、2017)、『夢見る日本文化のパラダイム』(法蔵館、2015)、『中世の随筆』(竹林舎、2014)などがある。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、月1回のペースで、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2

TEL: 075-335-2078

<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>

京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車

第318回 日文研フォーラム

2018年 2月13日(火)14:00~16:00

講師：周 耘 武漢音楽学院(中国) 学部長／日文研 外国人研究員

コメンテーター：細川 周平 日文研 教授